

## 「刺激にあふれた香港でのスタディツアー」(平成 28 年 9 月)

香港は、日本からも近く、東洋と西洋の文化や生活習慣が混在するほか、グルメや買物等の魅力も加わり、短期間の訪問にはとても適した場所と言えます。香港の複数の大学との交流が近年深まっていく中で、この度、学生向けの「スタディツアー」を実施しました。

研修メニューは盛りだくさんです。香港大学と香港城市大学では、英語による授業を参観しました。内容は「ビジネス」と「英語表現法」に関するものでしたが、香港の各大学では留学生も多く、本学学生が「様々な国から来た若者が一緒に大学の授業を受けているのは、新鮮に感じられた。」と報告しています。両大学では、日本に関心を持っていたり、日本語を学んでいたりする学生たちと、それぞれ交流しましたが、かれらの熱意は驚くほどで、本学学生も「自分の考えや思いを、外国人を含めて相手にきちんと伝えるためには、そのための強い気持ちと技術が必要であることに気づかされた。」と感嘆していました。

香港日本人商工会議所の事務局長さんは、岡山県のご出身であり、本学の客員教授にも就任いただいています。そこで同会議所において、短時間でしたが、インターンシップも経験させていただきました。「社会人の会議やプレゼンに立ち会うのは初めてで、緊張感のある現場が体験できた。」と参加学生も喜んでいました。



ある岡山県企業の香港事業所では、現地採用の日本人職員の方から様々なお話を伺うことができました。「香港で活躍する日本人のお話を聞き、海外で働くという選択肢を意識するようになった。」と、参加学生もおおいに刺激を受けたようです。また別の日系企業の訪問では、中華圏の様々な職員への対応に関して、参加学生は「香港の人、中国の人、台湾の人といった区別をせず、一人の人間としてつきあうべきだ、というお話はとても参考になった。」と述べています。さらに日系公的機関で、食品に関する香港と日本との深い繋がりをご説明いただき、実際にデパートでそうした状況を確認した後に、参加学生は「香港は日本食品の最大輸出先である等、日本が海外で信頼されていることが分かった。」と述べています。

香港は、大変狭いエリアの中に、実に多様で刺激に溢れたものが、ぎゅっと詰め込まれているため、街角ウォッチングには最適です。そこで今回は、以下の場所を訪れたり、様々な乗物にチャレンジしたりしました。

生鮮食品市場、日系デパート、若手デザイナー支援ビル、夜市、植物園、観鳥園、

海辺の散歩道、ビクトリア・ピーク、地下鉄、2階建てのトラム・バス、フェリー等

参加した学生たちも「香港の乗物はどれも便利で、看板や表示にも、分かりやすくするための工夫があった。」

「トラムの2階からの景色は素晴らしく、肌に感じる風は、とても心地良かった。」などの感想を述べています。

香港での滞在は約1週間でしたが、「自主研修」として、学生各自がテーマをそれぞれ決めて独自に調査し、レポートを作成する、という課題を与えました。テーマは「香港の食文化」「アートによる環境デザイン」「香港のピクトグラム」等でしたが、なかなかの内容に仕上がっていました。学生からは、「目的を持って街や物を見ていくことで、また新しい発見があることに気づき、楽しかった。」という感想が寄せられました。

スタディツアー全体に対しては、「自分の語学力の低さを実感して、もっと英語を勉強しようと思った。」「スタディツアーでなくては行けない所へ行け、会えない人に会える等、貴重な経験だった。」などと参加学生は述べていることから、一定の成果を挙げられたものと判断しており、同時に、今後の内容・方法等の更なる改善に努めたいと考えています。

